



文化会館等施設についての地域説明会



❖日光地域❖

日時:平成30年8月30日(木)18:00~

会場:日光霧降スケートセンター

❖藤原地域❖

日時:平成30年9月1日(土)13:30~

会場:藤原公民館(藤原行政センター)

本日の説明会概要

- 市長あいさつ
- 説明事項
 - ✓ 公共施設マネジメントについて
 - ✓ 文化会館等施設の方向性について
- 質疑応答・意見交換

《公共施設（ハコモノ）の保有状況》

総延床面積：53.9万㎡ (H28.4.1現在)

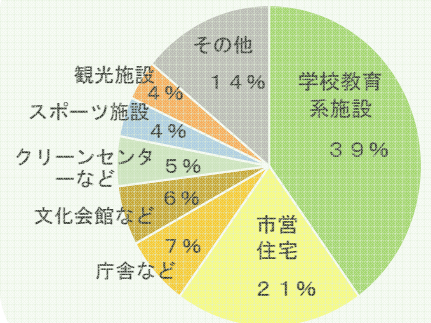
市民一人当たりの施設保有量：6.08㎡

全国平均の1.8倍

施設数では約634施設

築30年以上の建物が42%
老朽化が進む施設をたくさん抱えている

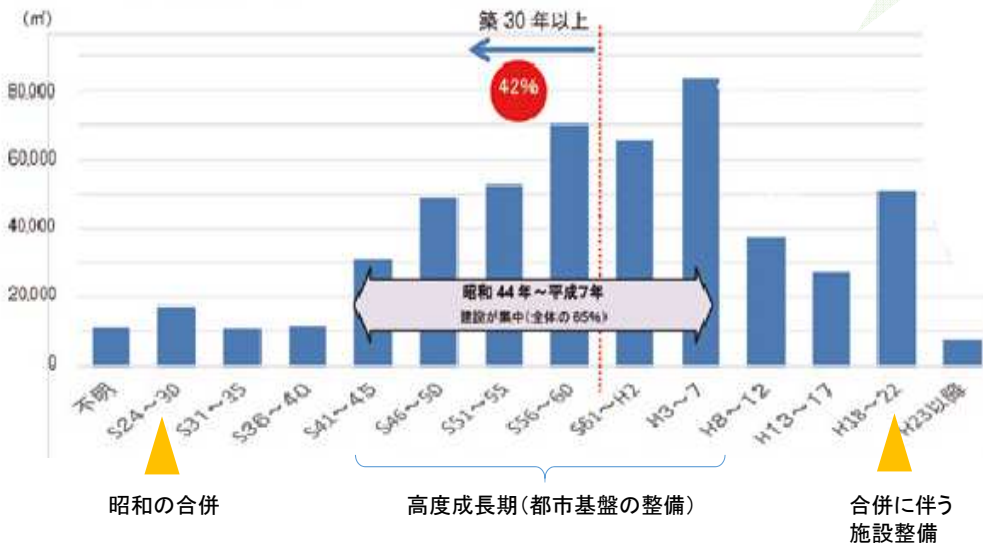
【保有内訳】



学校施設：4割

市営住宅：2割

図1：日光市の保有施設整備状況（平成25年度末）

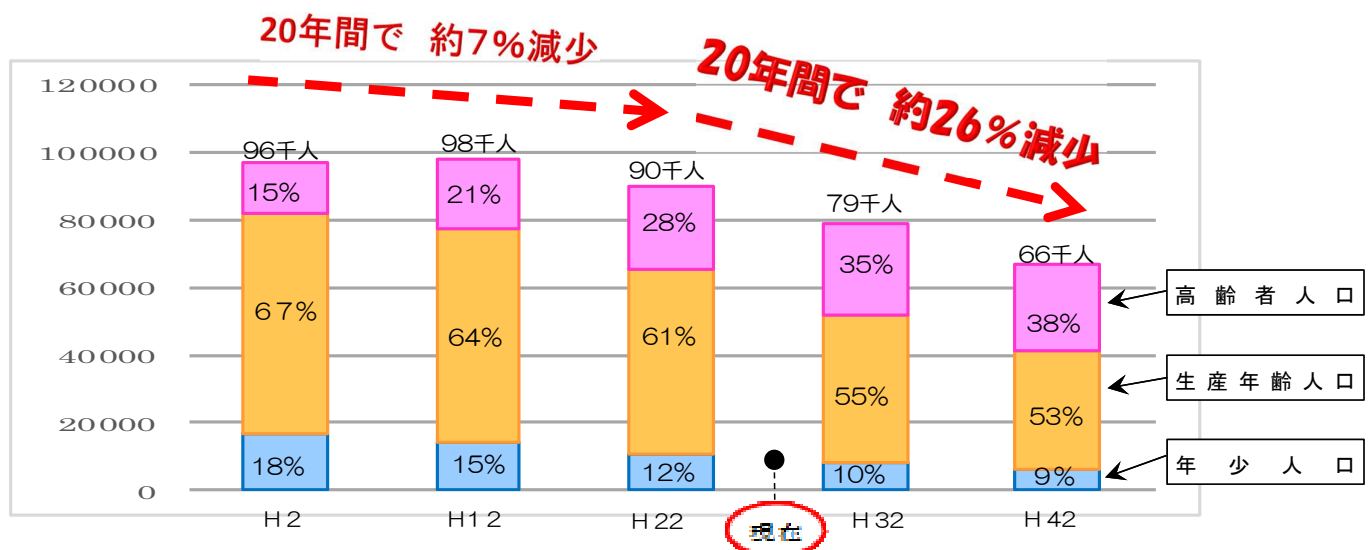


老朽化対策が必要な施設は
全体の7割！

《日光市を支える人口の見通し》

総人口が急激に減少し、少子高齢化も進みます

日光市の人口推移及び将来予測



生産年齢人口減少
(働く人)

税収の減少

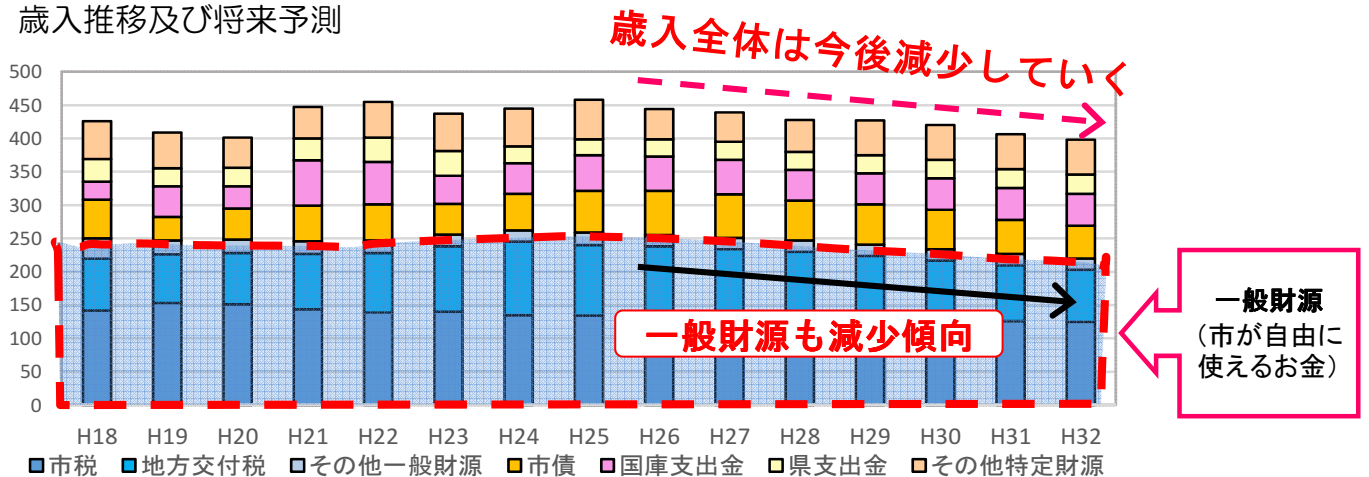
日光市の人口は年々減少していて、平成42年には6万6千人になると予測されているんだ。

過去20年の減り方と比べて、急激に人口減少が進むことや、生産年齢人口（15歳～64歳）の割合が減り、逆に高齢者人口の割合が増えることが予測されている。

生産年齢人口（働く世代）の減少は、税収の減少にもつながるし、少子高齢化が進むと、扶助費（医療・福祉等費用）の支出割合が増加するってことなんだ。

《財政状況：お金の見通し》

歳入推移及び将来予測



人口減少等による税収の減収等、今後増える見込みのない収入に対して、少子高齢化による扶助費の増加が想定されるから、公共施設老朽化への対応に使えるお金が限られてくるという状況なんだ。

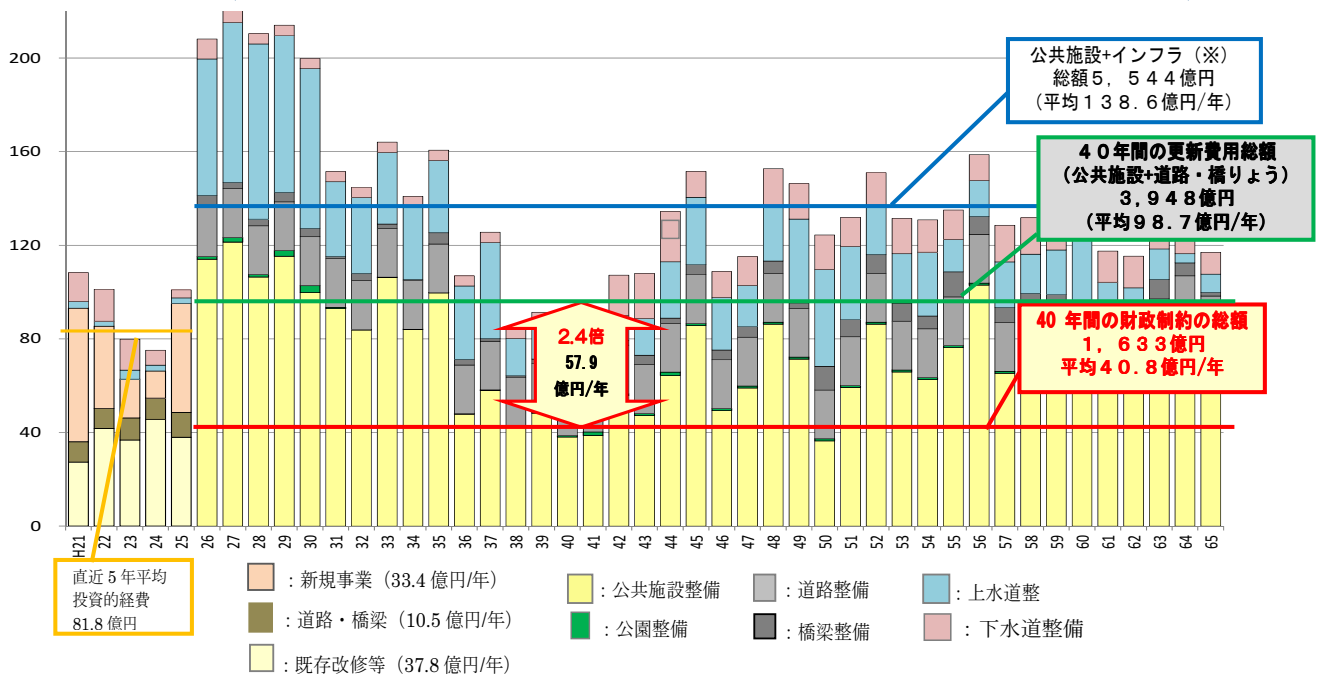
使えるお金全体が減少していくのだから、使い道の配分を変えていくしかない。(お給料が減れば、今までと同じような生活はできない。外食を減らしたり、ゲームも買うのを諦めないと...)

《公共施設・インフラの維持管理に係るコスト試算》

現在保有する施設の今後40年間に必要な維持・更新費用を試算すると・・

ハコモノだけでも年間73.4億円必要

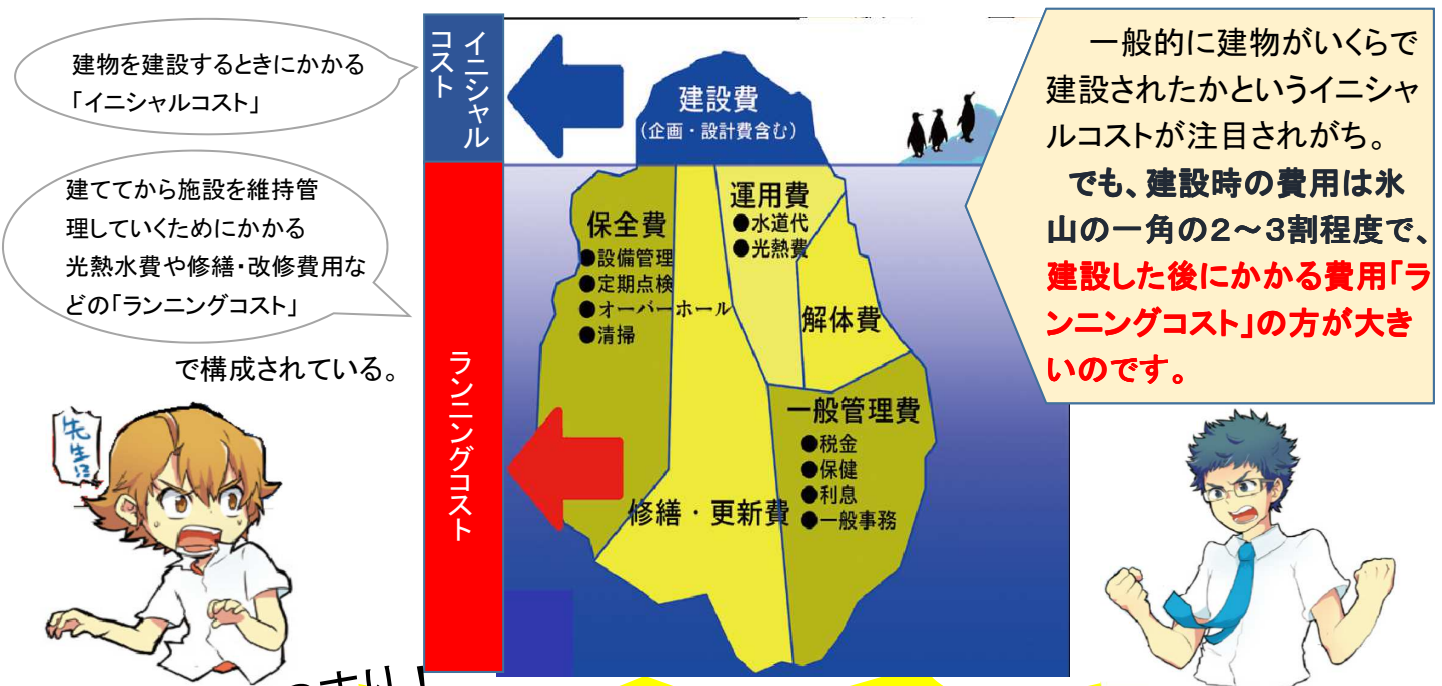
インフラも含め40年間で 総額5,544億円が必要



※建物にかかる生涯費用(建てるときから解体するまでの費用)のことを「建物のライフサイクルコスト(略称:LCC)」と言います。

【建物にかかる生涯費用(LCC)のイメージ】

ライフサイクルコストは・・

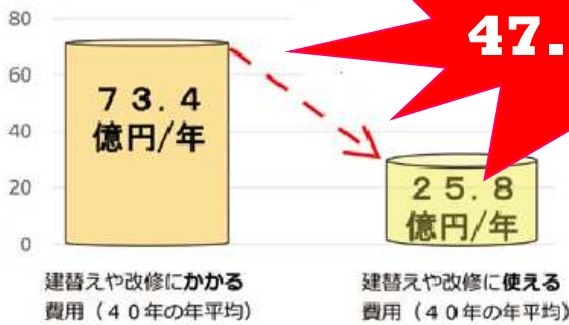


施設をたくさん持っているということは、それだけ施設を維持していくためのたくさんのお金が必要になるということ！！

■ これから40年間の公共施設の建替え、改修・修繕等に使えるお金 25.8億円/年



■ 対して公共施設の建替え、改修・修繕等にかかるお金 73.4億円/年



年間
47.6億円不足

使えるお金の不足分を施設面積に換算すると、現在保有する施設の半分以上が更新できないことに！



静かに危機は進行している・・・ 公共施設の老朽化



笹子トンネルの事故状況: 山梨県大月市消防本部提供資料

笹子トンネル天井板崩落事故 (平成24年12月2日)

崩落箇所では車両3台が下敷き。うち2台が火災となり焼損。死者9名 負傷者2名。

笹子トンネル: 1977年開通 **築35年経過**



東京都九段会館 (築77年)

2011年 震度5で天井崩落、2名死亡

老朽化は、地震や津波などの自然災害と違って確実に起きる。起こる可能性があるのではなく100%確実に老朽化する。何も対策を取らなければ、いずれは朽ち果ててわれわれの生命や財産を危険にさらす。老朽化はいつの間にか忍び寄る『緩やかな震災』である・・・

100%確実に予見できるということは100%確実に避けることができるということ その知恵と力が日本人にないはずがない。

東洋大学根本祐二教授「朽ちるインフラ・忍び寄るもうひとつの危機」から抜粋



11



12

どう努力しても

《すべての公共施設を維持することはできません》

このままじゃいけない、じゃあ、どうする？

必要なサービスの
選択をする時

皆で少し我慢
も必要

魅力ある日光市を次世代に引き継いでいく
ために皆で知恵を出し合い工夫する

市民との意識・情報の共有
協働で推進

13



14

文化会館等3施設については、更新に伴う事業費や、ランニングコストも含め多額な費用が見込まれることから、公共施設マネジメント計画実行計画の中でモデル事業として位置付け、機能の1館集約を前提に検討を行ってきました。

《対象施設》

日光総合会館(昭和47年築)



延床面積 (㎡)	構造	階数	耐震化 (Is値)	席数
5,679	RC	地上2 地下1	未実施 (0.65)	868

藤原総合文化会館(昭和48年築)



延床面積 (㎡)	構造	階数	耐震化 (Is値)	席数
3,158	RC	地上3 地下1	未実施 (0.4)	1222

今市文化会館(昭和51年築)



延床面積 (㎡)	構造	階数	耐震化 (Is値)	席数
3,742	SRC	地上4 地下1	実施済み	1066



いずれも老朽化が進む
1000人規模の
ホール機能を有した
文化会館施設

3施設を同時期に集約することを主眼に検討を行ってきましたが、新たな施設の整備については具体的な検討から実現までに多くの時間を有することから、やれることから段階的に調整することとしました。

STEP 1：低利用かつ未耐震である、日光総合会館と藤原総合文化会館を早期に廃止する。

- 年間のランニングコストが高額であるため、早期である程、削減効果が高くなる。
- 各施設の立地上、跡地活用による収益効果を見込める。

STEP 2：今市文化会館を改修して使用するか、新たな文化会館施設を整備（建替え）するかの方向性を、平成30年度中に調整する。

- 今市を改修して使用する場合、新たに施設建替えと比較すると直近の財政負担を抑制出来るものの、相応の改修費用（直近で約18億円）がかかる。
- 改修した場合でも20年強しか延命が図れない。20年後の施設整備を考慮すると、40年間のトータルコスト上は、規模を縮小して新たに施設整備した方がコスト削減できると試算される。

- 跡地活用並びに施設整備の検討にあたっては・・・
- ・市単独での財源確保は厳しい。
 - ・民間参入の意欲や市場性などの把握が必要。

民間発想、資金、経営感覚等の民間活力の活用を検討

集約に向けた各施設スケジュール（案）※最短の場合

	H30	H31	H32	H33
今市文化会館	改修or建替えに向けた検討調整	工事实施設計	工事	
日光総合会館 藤原総合文化会館	跡地活用に向けた検討・調整		施設解体／跡地整備	

※日光、藤原の施設廃止後の跡地利用については、地元要望並びに民間の発想、資金等の活用も視野に入れた検討調整を行う。

【留意点】

- ✓ 上記スケジュールは、ホール機能の利用空白期間が生じないように考慮しながら、全てを順調に進められた場合、考えられる最短のスケジュールを示したものです。
- ✓ 規模が大きな施設ですので、財源上も整備上の影響等もあると考えられることから、再度精査した上で、スケジュールは変動する可能性があります。

17

【日光総合会館・藤原総合文化会館廃止に関する判断資料】

◇文化会館3施設の現状

【建物状況】

	建築年度	築後年	延床面積(m ²)	構造	階数	耐震化(Is値)	席数
今市文化会館	1976	42	3,742	SRC	地上4、地下1	実施済み	1066
日光総合会館	1972	46	5,679	RC	地上2、地下1	未実施(0.65)	868
藤原総合文化会館	1973	45	3,158	RC	地上3、地下1	未実施(0.4)	1222

※Is値とは：建物の耐震性能を示す指標。（建物の強度・靱性、形状やバランス、経年劣化などといった耐震性能に大きく関わる要素を総合的に判断する指標一般的な建物であれば「Is値0.6以上であるか」がひとつの目安となる。）

- ・ $Is < 0.3$ …倒壊または崩壊する危険性が高い
- ・ $0.3 \leq Is < 0.6$ …倒壊または崩壊する危険性がある
- ・ $0.6 \leq Is$ …倒壊または崩壊する危険性が低い

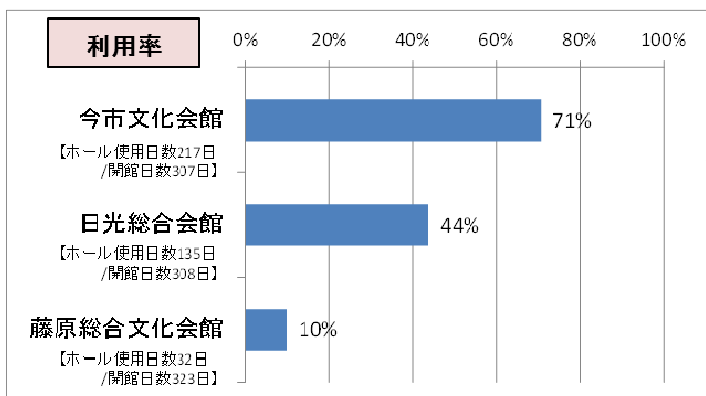


【課題と考察】

- 国が示す「官庁施設の総合耐震計画基準」において、社会教育施設、社会福祉施設として使用する官庁施設のIs値は0.75以上が求められており、「日光総合会館」と「藤原総合文化会館」が基準を満たしていない。
- 全ての施設が築後40年以上経過し、老朽化・劣化の進行が著しい。
- 1館に集約する方法として、いずれかの施設を改修して使用するにしても、耐震基準を満たしていない、日光、藤原を選択することはない。

18

【利用状況】



(利用状況はH27年度調査結果)

●ホールの入場者数別利用状況(平成23年度～平成27年度の5年間の平均)

	今市文化会館	日光総合会館	藤原総合文化会館	計
1000人以上	13件	3件	1件	17件
400人以上1000人未満	29件	9件	5件	43件
400人未満	128件	111件	31件	270件

400人未満の利用件数の中には、学校吹奏楽の練習、講演等のリハーサルや準備等少人数での利用も1件とカウントしています。

【課題と考察】

- 日光、藤原のホール利用率は特に低い。
- 入場者数の状況からみると、400人以上から1000人の規模については、全体の利用の内約20%に満たない状況。
- 利用状況や当市の人口規模等を考察すると1000人規模の施設を3つ持つ必要性はない。

19

【コスト状況】

○既存文化会館等を今後20年間維持・改修等した場合のトータルコスト

単位:千円

施設名	期間	1～5年目 (H28～32年度)		6～20年目 (H33～47年度)		合計
		改修費	ランニングコスト	改修費	ランニングコスト	
今市文化会館	改修費	2,166,636		1,110,221		3,276,857
	ランニングコスト	613,650		1,840,950		2,454,600
	計	2,780,286		2,951,171		5,731,457
日光総合会館	改修費	1,316,599		879,283		2,195,882
	ランニングコスト	438,220		1,314,660		1,752,880
	計	1,754,819		2,193,943		3,948,762
藤原総合文化会館	改修費	779,592		479,932		1,259,524
	ランニングコスト	352,650		1,057,950		1,410,600
	計	1,132,242		1,537,882		2,670,124
合計	改修費計	4,262,827		2,469,436		6,732,263
	ランニングコスト計	1,404,520		4,213,560		5,618,080
	3館計	5,667,347		6,682,996		12,350,343

今市のみ改修して20年間使用し続けた場合

施設維持使用するのに年間約8,700万円程度かかっている

施設維持使用するのに年間約7000万円程度かかっている

3施設全てを20年間使用し続けた場合

※今市文化会館の改修費用には、一体施設である、中央公民館、勤労青少年ホームの改修費用も含む

※既存3館のランニングコストは公共施設マネジメント白書で算出した各館コスト(H22年度実績)から試算

【課題と考察】

- ホール施設は、施設規模が大きいいため、大規模改修や建替えにかかる費用が大きい。
- 施設だけでなく、附属設備機器等の更新についても、費用が莫大となる。
- 改修費だけでなく、施設用途の性質上、ランニングコスト(施設維持管理費用)も高額である。

20

ご静聴ありがとうございました。



★公共施設マネジメント(公共施設適正化)に関する情報は
<http://www.city.nikko.lg.jp/kanzai/shisetsu/manejimento.html>

日光市公共施設マネジメント

検索

各種団体等での研修、説明会も承ります。公共施設マネジメントのお問い合わせは、

行政経営部 管財課公共施設マネジメント推進室

☎0288-21-5132 E-mail: kanzai@city.nikko.lg.jp